

教科	数学	単位数	4単位	対象	2年次	選択群	K群	
使用教科書	新編 数学Ⅱ (数研)			副教材等			履修	必履修・ 選択
授業の概要			学習の到達目標			履修の条件・進路		
社会現象や自然現象の解明に欠かせない関数とそのグラフの分析のための考え方や方法を学びます。「数学Ⅰ」より内容が高度になります。数学の有用性や楽しさを今まで以上に味わうことができます。ただし、予習・復習を怠ると、楽しさまで達することが難しくなります。数学をより深めたい人向けの科目です。			・文字を含む等式や不等式について証明ができる。 ・方程式・不等式と図形を結びつけて数学的な見方ができる。 ・周期的に変化する量を分析できる。 ・指数と対数の関係が分かる。 ・微分と積分の関係が分かり、また計算ができる。			・条件は特にありません。 ・国立大農学部推薦を希望する人に向いています。		
学年 習 年 間 計 画	月	単元名	項 目	学 習 内 容				
	4月	第1章 式と計算	第1節 式と計算	1 3次式の展開と因数分解	2 二項定理			
	5月		第2節 等式・不等式の証明	2 整式の割り算	4 分数式とその計算	5 恒等式		
	6月	第2章 複素数と方程式	第1節 複素数と方程式の解	6 等式の証明				
	7月		第2節 高次方程式	7 不等式の証明				
	8月	第3章 図形と方程式	第1節 点と直線	1 複素数とその計算	2 2次方程式の解			
	9月		第2節 円	3 解と係数の関係				
	10月	第4章 三角関数	第1節 点と直線	4 剰余の定理と因数定理				
	11月		第2節 円	5 高次方程式				
	12月	第5章 指数関数と対数関数	第1節 点と直線	1 直線上の点	2 平面上の点			
	1月		第2節 円	3 直線の方程式	4 2直線の関係			
	2月	第6章 微分法と積分法	第3節 軌跡と領域	5 円の方程式	6 円と直線	7 2つの円		
3月	第1節 三角関数		7 軌跡と方程式					
4月	第7章 微分法と積分法	第2節 加法定理	8 不等式の表す領域					
5月		第1節 指数関数	1 角の拡張	2 三角関数	3 三角関数のグラフ			
6月	第8章 微分法と積分法	第2節 対数関数	4 三角関数の性質	5 三角関数を含む方程式・不等式				
7月		第1節 指数関数	6 加法定理の加法定理					
8月	第9章 微分法と積分法	第2節 対数関数	7 加法定理の応用					
9月		第1節 指数関数	1 指数の拡張					
10月	第10章 微分法と積分法	第2節 対数関数	2 指数関数					
11月		第1節 微分係数と導関数	3 対数とその性質					
12月	第11章 微分法と積分法	第2節 対数関数	4 対数関数					
1月		第1節 微分係数と導関数	5 常用対数					
2月	第12章 微分法と積分法	第2節 関数の値の変化	1 微分係数					
3月		第3節 積分法	2 導関数とその計算					
4月	第13章 微分法と積分法	第3節 積分法	3 接線の方程式					
5月		第1節 微分係数と導関数	4 関数の増減と極大・極小					
6月	第14章 微分法と積分法	第2節 関数の値の変化	5 関数の増減・グラフの応用					
7月		第3節 積分法	6 不定積分					
8月	第15章 微分法と積分法	第3節 積分法	7 定積分					
9月		第3節 積分法	8 定積分と図形の面積					
10月	第16章 微分法と積分法	第3節 積分法						
11月		第3節 積分法						
12月	第3節 積分法							
1月	第3節 積分法							
2月	第3節 積分法							
3月	第3節 積分法							
学習方法	【予習】 教科書の例、例題をよく読んで、できれば練習問題にも挑戦しましょう。 【授業】 説明をよく聞いて、ノートをきちんととりましょう。図形内容が多いですから、定規・コンパスを利用します。 【復習】 課題はもちろんのこと、ノートの例題や教科書の練習問題をもう一度解いてみましょう。							
評価の観点・評価規準・評価方法	関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解				
	・式と証明・高次方程式、いろいろな関数及び微分・積分の考え方や体系に関心もてる。 ・数学的な見方や考え方を事象の考察に活用できる。	・数学的な見方や考え方を身に付け、事象を数学的にとらえ論理的に考えることができる。 ・思考の過程を振り返り、多面的・発展的に考えることができる。	・事象を数学的に考察し、表現できる。 ・事象を数学的に処理する方法や推論の方法を身に付ける。 ・問題をよりよく解決する。	・基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解できる。 ・基礎的な知識を身に付ける。				
※ 上記の観点を基に、各学期とも評価する。 A：主に考查による B：主に授業等の活動による	評価方法	第1・2学期	第3学期	年度末				
	A：7割 B：3割 Bは、授業態度、ノート、小テスト、課題などの点	A：7割 B：3割 Bは、授業態度、ノート、小テスト、課題などの点	A：7割 B：3割 Bは、授業態度、ノート、小テスト、課題などの点	1学期：2学期：3学期 =2：2：1の割合で評定する。				
備考								

数学Ⅱ

総合学科

教 科	数 学	単位数	4 単位	対象	2 年次	選択群	J 群
使用教科書	新編 数学Ⅱ (数研)			副教材等	クリアー数学Ⅱ+B (数研)	履修	必修修・ 選択
授業の概要			学習の到達目標			履修の条件・進路	
<p>「数学Ⅰ」の方程式と不等式の内容に関連した式と証明・複素数と方程式、「数学Ⅰ」の図形と計量で学んだ三角比を発展させた三角関数を学習します。</p> <p>また、図形と方程式、指数関数と対数関数、微分と積分では、「数学Ⅰ」で学んだ基礎・基本を基に、より深い内容を学習し数学の楽しさを体得します。</p>			<p>・高次方程式を解くことができる。</p> <p>・直線や円などの基本的な平面図形の性質や関係性を理解できる。</p> <p>・様々な関数の特徴をグラフを描いてとらえることができる。</p> <p>・微分・積分の考えにより、関数の値の変化や面積を求めることができる。</p>			<p>・国公立大学進学希望者を対象とします。</p> <p>・理系大学進学希望者は、I 群の数学 B を同時に履修しなければなりません。</p>	
学 習 年 間 計 画	月	単元名	項 目	学 習 内 容			
	4 月	第 1 章 式と証明	第 1 節 式と計算 第 2 節 等式・不等式の証明	1 3 次式の展開と因数分解 3 整式の割り算 6 等式の証明	2 二項定理 4 分数式とその計算 7 不等式の証明	5 恒等式	
	5 月	第 2 章 複素数と方程式	第 1 節 複素数と 2 次方程式の解	1 複素数とその計算 3 解と係数の関係	2 2 次方程式の解 4 剰余の定理と因数定理		
	6 月	第 3 章 図形と方程式	第 2 節 高次方程式 第 1 節 点と直線	5 高次方程式 1 直線上の点	2 平面上の点 3 直線の方程式	4 2 直線の関係 5 円の方程式	6 円と直線 7 2 つの円
	7 月	第 4 章	第 2 節 円 第 3 節 軌跡と領域 第 1 節 三角関数	8 軌跡と方程式 1 角の拡張	9 不等式の表す領域 2 三角関数	3 三角関数のグラフ	
	9 月	三角関数	第 2 節 加法定理 第 1 節 指数関数 第 2 節 対数関数	4 三角関数の性質 6 三角関数の加法定理 1 指数の拡張	5 三角関数を含む方程式・不等式 7 加法定理の応用 2 指数関数	3 対数とその性質	
	10 月	第 5 章 指数関数と対数関数	第 1 節 微分係数と導関数 第 2 節 関数の値の変化 第 3 節 積分法	4 対数関数 1 微分係数	5 常用対数 2 導関数とその計算	3 接線の方程式 4 関数の増減と極大・極小	5 関数の増減・グラフ
	11 月	第 6 章 微分法と積分法		6 不定積分	7 定積分	8 定積分と図形の面積	
	12 月						
	1 月						
	2 月						
	3 月						
	学習方法	<p>【予習】 教科書の例、例題をよく読んで理解しましょう。</p> <p>【授業】 説明をよく聞き、理解に努めましょう。理解できない内容は下線等を引き、早めに質問しましょう。</p> <p>【復習】 その日に学習した内容について、課題が出ます。課題を確実に解き、その日の内容を理解しましょう。</p>					
評価の観点・評価規準・評価方法	関心・意欲・態度		数学的な見方や考え方		数学的な技能		知識・理解
	<p>・式と証明・高次方程式、いろいろな関数及び微分積分の考えにおける考え方や体系に関心をもち、積極的に授業に参加する。</p> <p>・予習・復習を欠かさない。</p>		<p>・式と証明・高次方程式、いろいろな関数及び微分積分の学習において、様々な角度から考える。</p> <p>・内容を一つ一つ積み重ね論理的に考える。</p>		<p>・図やグラフ等をうまく利用する。</p> <p>・解答に式と説明をうまく配分する。</p>		<p>・式と証明・高次方程式、いろいろな関数及び微分積分の考えにおける基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、知識として定着している。</p>
評価方法		第 1・2 学期		第 3 学期		年度末	
<p>※ 上記の観点を基に、各学期とも評価する。</p> <p>A：主に考查による観点別評価</p> <p>B：主に授業等の活動による観点別評価</p>		A：7割 B：3割				1・2 学期の平均	
備考	<p>・進学補習は、授業を進めます。</p> <p>・年度当初～2 学期 1 1 月下旬まで 1 4 0 時間実施</p>						

教科	数学	単位数	6単位	対象	3年次	選択群	N群・P①群
使用教科書	新編 数学Ⅲ (数研)			副教材等	クリアー数学Ⅲ (数研)		履修 必履修・ 選択
授業の概要			学習の到達目標			履修の条件・進路	
「数学Ⅱ」で学んだ微分積分法を更に発展させたかたちで学習します。数列の極限、関数の極限から始まり、三角関数・指数関数・対数関数などの微分・積分の基礎とその応用について学習します。毎回必ず、課題を出します。			<ul style="list-style-type: none"> 数列の極限の計算ができる。 関数の極限の計算ができる。 様々な関数のグラフを描くことができる。 定積分により、平面図形の面積や立体の体積を求めることができる。 			<ul style="list-style-type: none"> 2年次で数学Ⅱ・数学Bを履修していることが必要です。 N群とP①群の数学Ⅲを同時に履修しなければなりません。 4年制理系大学進学(国公立、私立)希望者を対象とします。 	
学 習 年 間 計 画	月	単元名	項 目	学 習 内 容			
	4月	第1章 複素数平面 第2章 式と曲線	第1節 2次曲線	1 複素数平面 2 複素数の極形式	3 ド・モアブルの定理 4 複素数と図形		
	5月		第2節 媒介変数表示と極座標	1 放物線 2 楕円 3 双曲線	4 2次曲線の平行移動 5 2次曲線と直線		
	6月	第3章 関数 第4章 極限	第1節 数列の極限	1 分数関数 2 無理関数	3 逆半数と合成関数		
	7月		第2節 関数の極限	1 数列の極限 2 無限等比数列 3 無限級数	4 関数の極限(1) 5 関数の極限(2)		
		9月	第5章 微分法	第1節 導関数	1 微分係数と導関数 2 導関数の計算	3 いろいろな関数の導関数 4 第n次導関数	
	第2節 いろいろな関数の導関数			1 接線の方程式 2 平均値の定理	3 関数の値の変化 4 関数のグラフ		
	10月	第6章 微分法の応用	第1節 導関数の応用	1 不定積分とその基本性質	2 置換積分法と部分積分法		
	11月		第2節 いろいろな応用	1 不定積分とその基本性質	2 置換積分法と部分積分法		
	12月	第7章 積分法とその応用	第1節 不定積分	1 不定積分とその基本性質	2 置換積分法と部分積分法		
	1月		第2節 定積分	1 不定積分とその基本性質	2 置換積分法と部分積分法		
	2月	第3節 積分法の応用 発展	第3節 積分法の応用 発展	7 面積 8 体積	9 道のり 10 曲線の長さ		
3月	9 道のり 10 曲線の長さ			微分方程式			
学習方法	<p>【予習】 教科書の例、例題をよく読んで理解しましょう。できれば、練習問題にも挑戦しましょう。</p> <p>【授業】 説明をよく聞き、理解に努めましょう。理解できない内容は、下線等を引き、早めに質問しましょう。</p> <p>【復習】 その日に学習した内容について、必ず課題が出ます。課題を解くことで復習はできますが、問題集で類題を解けば、さらに理解が確実なものになります。</p>						
評価の観点・評価規準・評価方法	関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解			
	<ul style="list-style-type: none"> 極限、微分法及び積分法における考え方や体系に関心を持ち、積極的に授業に参加する。 予習・復習を欠かさない。 授業で発表を進んでする。 	<ul style="list-style-type: none"> 極限、微分法及び積分法の学習において、様々な角度から考える。 内容を一つ一つ積み重ね、論理的に考える。 図形をうまく活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> グラフを的確に描く。 極限、微分法及び積分法の問題解決において、図やグラフ等をうまく利用する。 解答に式と説明文をうまく配分する。 	<ul style="list-style-type: none"> 極限、微分法及び積分法における基本的な概念、原理、法則、用語・記号などを理解し、知識として定着している。 			
※ 上記の観点を基に、各学期とも評価する。 A：主に考查による 観点別評価 B：主に授業等の活動による観点別評価	評価方法	第1・2学期	第3学期	年度末			
		A：7割 B：3割 Bは、授業態度(発表)小テスト、課題の取組状況、長期休業中の課題等	A：7割 B：3割 Bは、冬季休業中の課題、授業態度等(課題を重要視)	1学期：2学期：3学期 = 2：2：1の割合で評定する。			
備考	<ul style="list-style-type: none"> 進学補習は、授業を進めます。 定期考查は、5回すべて実施します。 						

教科	数学	単位数	2単位	対象	2年次	選択群	I群
使用教科書	新編 数学B (数研)			副教材等	7A-数学II+B (数研)		履修 必履修・ <input checked="" type="checkbox"/> 選択
授業の概要			学習の到達目標			履修の条件・進路	
「数学II」で学んだ微分積分法を更に発展させたかたちで学習します。数列の極限、関数の極限から始まり、三角関数・指数関数・対数関数などの微分・積分の基礎とその応用について学習します。毎回必ず、課題を出します。			<ul style="list-style-type: none"> ・数列の極限の計算ができる。 ・関数の極限の計算ができる。 ・様々な関数のグラフを描くことができる。 ・定積分により、平面図形の面積や立体の体積を求めることができる。 			<ul style="list-style-type: none"> ・2年次で数学II・数学Bを履修していることが必要です。 ・N群とP①群の数学IIIを同時に履修しなければなりません。 ・4年制理系大学進学(国公立、私立)希望者を対象とします。 	
学 習 年 間 計 画	月	単元名	項 目	学 習 内 容			
	4月						
	5月						
	6月						
	7月	第1章 平面上のベクトル	第1節 ベクトルとその演算 第2節 ベクトルと平面図形	1 ベクトル 2 ベクトルの演算 3 ベクトルの成分 4 ベクトルの内積 5 位置ベクトル 6 図形への応用 7 図形のベクトルによる表示 1 空間の点 2 空間のベクトル 3 ベクトルの成分 4 ベクトルの内積			
	9月						
	10月						
	11月	第2章 空間のベクトル		5 ベクトルの図形への応用 6 座標空間における図形			
	12月						
	1月						
	2月	第3章 数列	第1節 等差数列と等比数列 第2節 いろいろな数列 第3節 数学的帰納法	1 数列と一般項 2 等差数列 3 等差数列の和 4 等比数列 5 等比数列の和 6 和の記号Σ 7 階差数列 8 いろいろな数列の和 9 漸化式 10 数学的帰納法			
	3月						
学習方法	【予習】 教科書の例、例題をよく読んで理解しましょう。 【授業】 説明をよく聞き、理解に努めましょう。理解できない内容は下線等を引き、早めに質問しましょう。 【復習】 その日に学習した内容について、課題が出ます。課題を確実に解き、その日の内容を理解しましょう。						
評価の観点・評価規準・評価方法	関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解			
	<ul style="list-style-type: none"> ・ベクトルや数列における考え方や体系に関心を持ち、積極的に授業に参加する。 ・予習・復習を欠かさない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ベクトルや数列の学習において、様々な角度から考える。 ・内容を一つ一つ積み重ね、論理的に考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・図や表をうまく利用できる。 ・解答に式と説明文をうまく配分できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ベクトルや数列における基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、知識として定着している。 			
評価方法	評価方法	第1・2学期	第3学期	年度末			
	※ 上記の観点を基に、各学期とも評価する。 A：主に考査による 観点別評価 B：主に授業等の活動による 観点別評価		A：7割 B：3割 Bは、授業態度(発表)、小テスト、課題の取組状況、長期休業中の課題等	2・3学期の平均			
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・進学補習は授業を進めます。 ・12月上旬～年度末まで70時間実施 						

教科	数学	単位数	4 単位	対象	3 年次	選択群	N 群	
使用教科書	自主教材			副教材等	ニューステーション 数学演習 (数研)		履修	必履修・ 選択
授業の概要				学習の到達目標			履修の条件・進路	
数学 I、II、A、B の分野の復習をします。センター試験に向けて、より実践的な学習をします。応用問題や試験でのテクニックなどを学習します。				・数学 I、A、II、B トータルで 7 割以上理解する。			・国公立大学志望者が対象です。 ・2 年次に J 群の数学 II、I 群の数学 B を受講していることが条件です。	
学 習 年 間 計 画	月	単元名	項 目	学 習 内 容				
	4 月	自主教材 問題集ニューステーション・数学 I	・方程式と不等式 ・2 次関数	1 式の計算 (1)	2 式の計算 (2)			
	5 月			3 方程式・不等式の解法	5 2 次関数の最大・最小			
	6 月	・数学 A	・図形の計量 ・場合の数 ・確率 ・論証と集合	4 2 次関数	7 2 次不等式の種々の問題			
	7 月			6 2 次不等式	8 三角比の基本			
	9 月	・数学 B	・図形と式 ・三角関数 ・指数・対数関数 ・微分法 ・積分法 ・平面上のベクトル ・数列	7 2 次不等式の種々の問題	9 三角比と図形 (1)			
	10 月			8 三角比の基本	10 三角比と図形 (2)			
	11 月			9 三角比と図形 (1)	11 三角比と図形 (3)			
	12 月			10 三角比と図形 (2)	12 集合			
	1 月			11 場合の数・順列	13 場合の数・順列			
	2 月			12 組合せ・二項定理	15 確率 (1)			
	3 月	問題演習	・センター試験数学 I A、II B の演習	14 確率 (2)	17 命題と論証			
	4 月	問題演習	・センター試験数学 I A、II B の演習	16 確率 (2)	19 平面図形 (1)			
5 月	問題演習	・センター試験数学 I A、II B の演習	19 平面図形 (1)	20 平面図形 (2)				
6 月	問題演習	・センター試験数学 I A、II B の演習	21 多項式の除法、分数式	22 恒等式、等式・不等式				
7 月	問題演習	・センター試験数学 I A、II B の演習	23 複素数とその計算	24 2 次方程式の理論				
8 月	問題演習	・センター試験数学 I A、II B の演習	25 因数定理、高次方程式	26 点・直線・円				
9 月	問題演習	・センター試験数学 I A、II B の演習	27 曲線と直線	28 軌跡と領域				
10 月	問題演習	・センター試験数学 I A、II B の演習	29 三角関数 (1)	30 三角関数 (2)				
11 月	問題演習	・センター試験数学 I A、II B の演習	31 指数関数	32 対数関数				
12 月	問題演習	・センター試験数学 I A、II B の演習	33 導関数と接線	34 関数の極大・極小				
1 月	問題演習	・センター試験数学 I A、II B の演習	35 関数の最大・最小	36 微分法の応用				
2 月	問題演習	・センター試験数学 I A、II B の演習	37 不定積分・定積分	38 定積分で表された関数				
3 月	問題演習	・センター試験数学 I A、II B の演習	39 面積の計算 (1)	40 面積の計算 (2)				
4 月	問題演習	・センター試験数学 I A、II B の演習	41 平面ベクトルの基本	42 平面ベクトルと図形				
5 月	問題演習	・センター試験数学 I A、II B の演習	43 空間ベクトルと図形	44 等差数列・等比数列				
6 月	問題演習	・センター試験数学 I A、II B の演習	45 種々の数列	46 漸化式と数列				
7 月	問題演習	・センター試験数学 I A、II B の演習	問題演習	問題演習				
8 月	問題演習	・センター試験数学 I A、II B の演習	問題演習	問題演習				
9 月	問題演習	・センター試験数学 I A、II B の演習	問題演習	問題演習				
10 月	問題演習	・センター試験数学 I A、II B の演習	問題演習	問題演習				
11 月	問題演習	・センター試験数学 I A、II B の演習	問題演習	問題演習				
12 月	問題演習	・センター試験数学 I A、II B の演習	問題演習	問題演習				
1 月	問題演習	・センター試験数学 I A、II B の演習	問題演習	問題演習				
2 月	問題演習	・センター試験数学 I A、II B の演習	問題演習	問題演習				
3 月	問題演習	・センター試験数学 I A、II B の演習	問題演習	問題演習				
学習方法	【予習】 教科書の例、例題をよく読んで理解しましょう。できれば、練習問題にも挑戦しましょう。 【授業】 説明をよく聞き、理解に努めましょう。理解できない内容は、下線等を引き、早めに質問しましょう。 【復習】 その日に学習した内容について、ノートを見て確認しましょう。また、課題を解くことで、復習はできます。							
評価の観点・評価規準・評価方法	関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解				
	・授業を通して、数学的な見方や考えのよさを認識し、積極的に授業に参加する。 ・復習を欠かさない。	・数学的な見方や考え方を身につけ、事象を数学的にとらえ、論理的に考えるとともに思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えられる。	・解答に式と説明文をうまく配分する。 ・事象を数学的に考察し、表現し処理する仕方や推論の方法を身に付け、よりよく問題を解決できる。	・数学 I、II、A、B の分野における基本的な概念、原理、法則、用語・記号などを理解し、知識として定着している。				
評価規準・評価方法	評価方法	第 1・2 学期	第 3 学期	年度末				
	※ 上記の観点を基に、各学期とも評価する。 A：主に考査による 観点別評価 B：主に授業等の活動による観点別評価	A：7 割 B：3 割 B は、授業態度 (発表) 小テスト、課題の取組状況、長期休業中の課題等	A：7 割 B：3 割 B は、冬季休業中の課題、授業態度等 (課題を重要視)	1 学期：2 学期：3 学期 = 2：2：1 の割合で評定する。				
備考								

教科	数学	単位数	4単位	対象	3年次	選択群	N群
使用教科書	自主教材			副教材等	ジュニア演習数学Ⅰ・A受験編(数研出版)		履修 必修修・選択
授業の概要			学習の到達目標			履修の条件・進路	
看護・医療系の入試に対応できる授業です。数学Ⅰと数学Aの基本事項を復習しつつ、入試レベルの応用問題を解いていきます。また、その都度、模試の過年度の問題や実際の各学校の入試問題を解きます。			<ul style="list-style-type: none"> ・オールラウンドな基礎的問題が解ける。 ・数学的に深く考えられる。 ・問題に対するイメージがつかれる。 ・要領よく答案をまとめることができる。 ・時間内で解くことができる。 			・医療系の専門学校や高等看護学校の希望者を対象とします。	
学年 計画 画	月	単元名	項目	学習内容			
	4月	・数と式 ・2次関数	<ul style="list-style-type: none"> ・式の計算・実数 ・1次不等式 ・2次関数とグラフ ・2次関数の値の変化 ・2次方程式と2次不等式 	<ul style="list-style-type: none"> ・式の展開、因数分解 ・根号を含む式の計算・1次不等式 ・2次関数のグラフ ・2次関数の最大、最小 ・グラフと2次方程式 ・グラフと2次不等式 ・三角形の性質・円の性質 ・空間図形 ・三角比 ・正弦定理、余弦定理 ・図形の計量 			
	5月						
	6月	・図形の性質 ・三角比	<ul style="list-style-type: none"> ・平面図形 ・空間図形 ・三角比 ・三角形への応用 				
	7月						
	9月	<ul style="list-style-type: none"> ・数と式 ・場合の数と確率 ・整数の性質 ・データの分析 ・総合問題 	<ul style="list-style-type: none"> ・集合と命題 ・場合の数 ・確率 ・約数と倍数 ・ユークリッドの互除法 ・整数の性質の活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・集合と命題 ・場合の数 ・順列 ・組合せ ・確率(1) ・確率(2) ・整数の性質(1) ・整数の性質(2) ・いろいろな方程式の整数解 ・データの分析 ・問題演習 			
	10月						
	11月						
	12月						
	1月			・問題演習			
	2月						
	3月						
	学習方法	<ul style="list-style-type: none"> 【予習】 事前に課題が常に課されます。 【授業】 融合問題を中心に解説しますから、問題を解くコツを掴みましょう。 【復習】 解けなかった問題は、日を置いて解いてみましょう。 					
評価の観点・評価規準・評価方法	関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解			
	<ul style="list-style-type: none"> ・数学の各分野間の関連に関心をもつ。 ・入試問題等に意欲的に取り組む。 ・一つ一つの問題を丁寧に解決する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・数学的に深く考える。 ・論理的に説明できる。 ・直観的に全体を把握できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題を図にして表すことができる。 ・筋道立った答案が書ける。 ・要領よく答案をまとめることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定義や定理を正確に把握する。 ・基礎的内容を理解できる。 ・概念把握ができる。 			
評価規準・評価方法	評価方法	第1・2学期	第3学期	年度末			
	<ul style="list-style-type: none"> ※ 上記の観点を基に、各学期とも評価する。 A：主に考査による観点別評価 B：主に授業等の活動による観点別評価 	<ul style="list-style-type: none"> A：7割 B：3割 Bは授業態度、課題、ノート等 	<ul style="list-style-type: none"> A：7割 B：3割 Bは授業態度、課題、ノート等 	<ul style="list-style-type: none"> 1学期：2学期：3学期 = 2：2：1の割合で評定する。 			
備考							

教科	数学	単位数	2単位	対象	2年次	選択群	J①・K②群	
使用教科書	自主教材			副教材等	数学就職問題集 (数学部会)		履修 必履修・ 選択	
授業の概要			学習の到達目標			履修の条件・進路		
自主教材、就職問題集を用いて、具体的な事象を数学的に処理するための基礎を身に付ける科目です。歩合の計算、関数、方程式、不等式、場合の数、確率について学習します。場合の数と確率では、順列・組合せ、確率を学びます。			<ul style="list-style-type: none"> 基本的な計算ができる。 文章を読み取り、式をたてることができる。 実生活における具体的な例を通して、場合の数や確率を求めることができる。 			<ul style="list-style-type: none"> 文系大学進学希望者及び医療系進学希望者の中で数学Ⅱを必要としない者、准看護学校や就職希望者を対象とします。 		
学 習 年 間 計 画	月	単元名	項 目	学 習 内 容				
	4月	自主教材 数学就職問題集	第1章 比と歩合	<ul style="list-style-type: none"> 歩合計算 比例式 濃度の問題 四則演算 無理数の計算 整式の加法・減法・乗法 (展開) 簡単な分数式の計算 数分解 式の値 1次方程式と連立方程式 1次関数 				
	5月		第2章 数と計算式					
	6月		第3章 1次方程式と1次関数					
	7月				<ul style="list-style-type: none"> 2次方程式と2元2次連立方程式 2次関数 1次不等式 2次不等式 連立不等式 教え上げ 順列 組合せ 確率の意味、確率の基本的な性質 余事象の確率、独立な試行の確率 反復試行の確率、期待値 			
	9月	第4章 2次方程式と2次関数						
	10月	第5章 不等式						
	11月	第9章 場合の数と確率						
	12月				<ul style="list-style-type: none"> 辺の長さ 図形の面積 角度 相似形 立体図形 			
	1月	第10章 図形						
	2月							
	3月							
	学習方法	<p>【予習】 教科書の問題をよく読んで理解しましょう。</p> <p>【授業】 説明をよく聞き、理解に努めましょう。理解できない内容は下線等を引き、早めに質問しましょう。</p> <p>【復習】 その日に学習した内容について、課題が出ます。課題を確実に解き、その日の内容を理解しましょう。</p>						
評価の観点・評価規準・評価方法	関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解				
	<ul style="list-style-type: none"> 歩合計算、四則演算、式の計算、方程式、場合の数と確率に関心をもち、積極的に授業に参加する。 	<ul style="list-style-type: none"> 文章を読み取り、式をたてることができる。 実生活における具体的な例と結びつけることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な計算ができる。 解答に式と説明文をうまく配分する。 図をうまく導入し、考えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 各計算や方程式、場合の数、確率における基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、知識として定着している。 				
※ 上記の観点を基に、各学期とも評価する。 A：主に査査による 観点別評価 B：主に授業等の活動による 観点別評価	評価方法	第1・2学期	第3学期	年度末				
		A：7割 B：3割 Bは、授業態度（発表）、小テスト、課題の取組状況、長期休業中の課題等	A：7割 B：3割 Bは、冬季休業中の課題、授業態度	1学期：2学期：3学期＝2：2：1の割合で評定する。				
備考								

教科	数学	単位数	2単位	対象	3年次	選択群	P①・S①群	
使用教科書	自主教材			副教材等	数学就職問題集(数学部会)		履修 必履修・ 選択	
授業の概要			学習の到達目標			履修の条件・進路		
自主教材、就職問題集を用いて、具体的な事象を数学的に処理するための基礎を身に付ける科目です。歩合の計算、関数、方程式、不等式、場合の数、確率について学習します。場合の数と確率では、順列・組合せ、確率を学びます。			<ul style="list-style-type: none"> 基本的な計算ができる。 文章を読み取り、式をたてることができる。 実生活における具体的な例を通して場合の数や確率を求めることができる。 			<ul style="list-style-type: none"> 看護学校や就職希望者を対象とします。 2年次の実践数学Ⅰとほぼ同じ内容ですが、継続して履修することは可能です。 		
学年 間 計 画	月	単元名	項目	学習内容				
	4月	自主教材 数学就職問題集	第1章 比と歩合	<ul style="list-style-type: none"> 歩合計算 比例式 濃度の問題 四則演算 整式の加法・減法・乗法(展開) 簡単な分数式の計算 因数分解 式の数値 1次方程式と連立方程式 1次関数 2次方程式と2元2次連立方程式 2次関数 				
	5月		第2章 数と計算式					
	6月		第3章 1次方程式と1次関数					
	7月		第4章 2次方程式と2次関数					
	9月	第5章 不等式 第9章 場合の数と確率	<ul style="list-style-type: none"> 1次不等式 連立不等式 数え上げ 組合せ 確率の意味、確率の基本的な性質 余事象の確率、独立な試行の確率 反復試行の確率、期待値 					
	10月		<ul style="list-style-type: none"> 2次不等式 順列 					
	11月		第10章 図形	<ul style="list-style-type: none"> 辺の長さ 角度 相似形 立体図形 図形の面積 				
	12月		第13章 総合問題	<ul style="list-style-type: none"> 総合演習問題 				
	1月							
	2月							
	3月							
	学習方法	<p>【予習】 教科書の問題をよく読んで理解しましょう。</p> <p>【授業】 説明をよく聞き、理解に努めましょう。理解できない内容は、下線を引き、早めに質問しましょう。</p> <p>【復習】 その日に学習した内容について、課題が出ます。課題を確実に解き、その日の内容を理解しましょう。</p>						
評価の観点・評価規準・評価方法	関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解				
	<ul style="list-style-type: none"> 歩合計算、四則演算、式の計算、方程式、場合の数と確率に関心を持ち、積極的に授業に参加する。 	<ul style="list-style-type: none"> 文章を読み取り、式をたてることができる。 実生活における具体的な例と結びつけることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な計算ができる。 解答に式と説明文をうまく配分する。 図をうまく導入し、考えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 各計算や方程式、場合の数、確率における基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、知識として定着している。 				
評価規準・評価方法	評価方法	第1・2学期	第3学期	年度末				
	<p>※ 上記の観点を基に、各学期とも評価する。</p> <p>A：主に査査による 観点別評価</p> <p>B：主に授業等の活動による 観点別評価</p>	<p>A：7割 B：3割</p> <p>Bは、授業態度(発表)、小テスト、課題の取組状況、長期休業中の課題等</p>	<p>A：7割 B：3割</p> <p>Bは、冬期休業中の課題、授業態度等(課題を重要視)</p>	<p>1学期：2学期：3学期＝2：2：1の割合で評定する。</p>				
備考								

